ステップ	運　転　操　作	参　考　事　項	備　考
ＳＰ／Ｔ	Ｓ／Ｐ温度制御	注意事項＃１３ 格納容器の温度に関する制限値は次のように適用する。 ・S/P 冷却開始温度……バルク温度 ・スクラム制限温度……バルク温度 ・S/P 熱容量制限曲線…局所温度 ・D/W 及び S/P 空間部温度…局所温度	解説　B-13
SP/T(W)	Ｓ／Ｐ水温制御 ＃１３		
SP/T(W)-1	S/P 水温が［32℃（通常運転制限温度）］まで上昇したら S/P 水温の冷却を開始する。 (注2)	(注2) S/P を冷却中に S/P 圧力が上昇傾向のとき又は S/P 空間部温度上昇が続く場合には，CCS １系統は S/P スプレイモードに切替える。 (補 1) この時点で反応度制御(RC/Q)が実行されている場合には，冷温停止操作はできない。 また，減圧操作は S/P 水温上昇を招き好ましくないすなわち反応度制御(RC/Q)を優先すること。	解説　A-18
SP/T(W)-2	24 時間以内に［32℃（通常運転制限温度）］に下がらない場合『ユニット操作手順書』により原子炉を通常停止する。		
SP/T(W)-2.1	24 時間以内に下がった場合監視強化へ脱出する。		解説　A-19
SP/T(W)-2.2	S/P 水温が［43℃（スクラム制限温度）］になったら原子炉をスクラムし「スクラム」(RC)へ脱出すると共に SP/T(W)-3 を実施する。 (補 1)		
SP/T(W)-3	S/P 水温を確認し，他制御への移行を判断する。 1. S/P 熱容量制限内の場合「減圧冷却」(CD)へ移行する。 2. S/P 熱容量制限に達した場合，不測事態「急速減圧」(C2)へ移行する。　＃１５　＃１６	注意事項＃１５ 原子炉冷却材の確保，PCV 健全性維持のためには[55℃／h(最大 RPV 冷却率)]以上での冷却が必要になる場合もある。 注意事項＃１６ S/P 水温が上昇するような事象が発生しているときに，S/P を吸込側としポンプを運転している場合にはポンプキャビティーション防止のため，S/P 水温と圧力を監視し NPSH についての要求に注意すること。 第 15 条緊急事態： 復水器器内圧力が 67.5kPaabs まで悪化した状態又は原子炉と復水器が完全に隔離した状態において，CCS 系の以下のモードが全て使用不能かつ SHC 系，IC 系が使用不能かつ S/P 水平均温度が 100℃以上に達した場合 ・サプレッションプール冷却モード ・格納容器スプレイモード	解説　B-15 解説　A-21 解説　B-16

一般　取扱注意　社内関係者限り　第一運転管理部